

水泳

	予測される危険	安全対策
用具	●コースロープの破損、破片を踏んでの怪我	●日常的に状態を確認する。破損を見つけたら修繕する。
環境	●プールサイドの木片や石を踏んでの怪我 鳥の糞や羽がプールに落ちる 排水溝の蓋やねじの不備による事故	●活動前後の点検、清掃をしっかり行う。
練習中	●体調不良による事故	●水に入る前の念入りのストレッチなどで怪我の予防及び精神的な準備をさせる。
	●気温が低い時期、シーズン初期は足がつる ハードな練習時、酸欠、頭痛が起こる	●個人の様子をよく観察し、早めの休憩をとらせる。生徒自身が自分の状態を常に把握し、体調の変容に気づいたら練習を中断するよう、自己管理の徹底を図らせる。
	●スタート練習時、飛び込んだあとに静止していて次に飛び込んだ選手とぶつかる。	●飛び込んだ後に静止せずに、泳いでから退水するよう指示。指導者がいないときはスタート練習をしない。
	●落雷	●直ちに退水させる。前もって気象情報を把握しておく。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

卓球

	予測される危険	安全対策
用具	● 台の破損	● 状況により用務員や施設課へ修繕依頼。
	● ラケットのグリップが滑ってすっぽ抜ける	● 道具のチェック、手入れを日頃から怠らない。
環境	● 熱中症（窓、カーテンを閉め切るため）	● 適度な休憩水分補給の時間を設定する。 ドアを開放して空気を入れ替える。
	● 汗で床が滑ることによる転倒	● 靴の裏をこまめに拭く。
練習中	● ラケットが周りの人や台に当たる	● 適切な距離を取る（台や人との間隔）。
	● ボールを踏んで転倒	● ボールを適宜拾う。メニューの合間に拾う時間を取る。
	● 卓球台の移動、開閉時における卓球台の転倒による事故	● 台の移動は複数で行う。声を掛け合いながら行わせる。周囲の安全確認を怠らない。静かに設置し、指を挟まないようにする。
	● 体が温まらないうちの練習による膝部や各部位の捻挫など	● 足首やアキレス腱のストレッチを行う。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

美術

	予測される危険	安全対策
用具	<ul style="list-style-type: none"> ●カッター等刃物の刃こぼれ キャンバス、イーゼル等のささくれ 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々のチェック、手入れを怠らない。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●熱中症 ●夏はかなり暑く、冬はかなり寒い 	<ul style="list-style-type: none"> ●水分補給、扇風機。 エアコンのある教室があればその部屋で活動。
練習中	<ul style="list-style-type: none"> ●絵の具が目に入る 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しい使用法の指導。入ったらすぐに水で洗い流す。
	<ul style="list-style-type: none"> ●カッター、ハサミ等による怪我 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しい姿勢、正しい使用法の指導。
	<ul style="list-style-type: none"> ●外でのスケッチの際の事故 	<ul style="list-style-type: none"> ●危険な場所での活動をさせない。部員の活動場所の把握。時間設定。
	<ul style="list-style-type: none"> ●油絵具やスプレー糊などの匂いによる体調不良 	<ul style="list-style-type: none"> ●なるべく室外で行わせる。室内活動の際は窓際で行う。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

野球

	予測される危険	安全対策
用具	●バット、ヘルメット、キャッチャー防具などの破損による怪我 防球ネットなどの破損	●破損のある道具は使用しない。日常的にチェックする。
環境	●イレギュラーバウンドによる怪我	●日頃のグラウンド整備。
	●石ころなどによる怪我	●日頃のグラウンド整備。
	●熱中症	●適切な休憩、給水時間の設定。
	●雷雨、落雷	●事前に情報収集に努め、早めに安全な場所に避難。
練習中	●ボールがぶつかることによる怪我	●相手の様子を確認してプレーさせる（よそ見をしていないかなど）。
	●素振りのバットが周りの選手に当たる	●適切な間隔を取らせる。
	●カバーの選手にぶつかる	●カバーする選手の距離を確保する。
	●打者の打った球が投手などに当たる。	●防球ネットの適切な配置。
	●野手同士の衝突	●声の掛け合いを徹底させる。
	●ベースを踏む際の捻挫	●ベースを踏む位置を練習前に確認する。
	●疲労による脱水症状	●健康観察をこまめに行う。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

小金南中安全マニュアル

陸上

	予測される危険	安全対策
用具	●シューズ、スパイクの紐がほどけて転倒	●生徒への呼びかけ、相互点検。
	●スターティングブロックが止まらずに転倒する。	●用具の点検を怠らない。
環境	●グラウンドの凹凸、小石などによる捻挫や怪我	●丁寧なグラウンド整備。
	●ぬかるみによる転倒	●降雨後の練習は注意させる。ぬかるみを避けて走らせる。
	●雷雨、落雷	●事前に情報収集に努め、早めに安全な場所に避難。
練習中	●アップ不足による怪我	●時間をかけて丁寧にアップさせる。
	●接触による怪我	●スタート時は合図を出す生徒が前方を確認する。声掛けの徹底。
	●他部活の生徒との衝突	●自分と周囲の動きに気を配らせる。
	●スパイクによる怪我	●危険性の周知。
	●複数メニューを同時進行している際の衝突	●周りの環境を常に把握させる声掛け、適切な練習メニューの設定。
	●疲労の蓄積	●休憩時間を設ける。時間をかけてじっくりクールダウンをさせる。
	●肉離れ〈短距離〉	●保温の工夫としてロングタイツの着用など。
	●熱中症〈中長距離〉	●服装（帽子）、水分補給、アイシングなど。
	●転倒、打撲など〈ハードル〉	●踏切位置のチェック。
	●着地ミス〈跳躍〉	●砂場を柔らかくならしておく。 ●マットを適切に設置する。 ●マットの外に落下しない。
	●砲丸が他の生徒に当たる〈砲丸投げ〉	●砲丸の練習時は指導者がつき安全確認をする。

※救急箱を用意し、怪我の際はすぐに応急処置ができるようにしておく。

